

本リリースの内容は、アメリカ東海岸において、7月10日(木)
午前 9:00 (日本時間同日午後 11:00) に発表しました。

2025 年 7 月 11 日

GlobalLogic Inc.

GlobalLogic が VelocityAI を活用して AI によるソフトウェア開発を加速し、 お客さまの事業成長を支援

株式会社日立製作所(以下、日立)の米国子会社である GlobalLogic Inc.(以下、GlobalLogic)は、このたび、AI を活用したサービス群「VelocityAI」においてソフトウェア開発を加速する AI-powered SDLC の活用を通じ、主要業界における本番環境への展開およびパイロット導入の件数が 3 倍に増加したことを発表しました。GlobalLogic は、VelocityAI による SDLC への効果が前年比で 5 倍に達すると予測しており、第 1 四半期の実績はすでに期待を上回っています。VelocityAI の SDLC 向けオファリングは、柔軟性・セキュリティ・成果において他に類を見ない価値を提供し、人を中心の開発から AI ネイティブなソフトウェア(プロダクト)の開発・実装・テスト・サポートへと進化するための包括的なエンドツーエンドのアプローチを提供します。

GlobalLogic は、エンタープライズレベルでの生成 AI 導入の成功には、業界特性、知的財産の機密性、ミッションクリティカル性、予算などが大きく影響することを認識しています。VelocityAI の 2025 年 3 月のローンチ^{*1}以降、GlobalLogic のエンジニアたちは、トレーニングを受け、各業界・地域において数多くの顧客に対し、明確な価値を提供してきました。テクノロジー、通信、ヘルスケア、メディア & エンターテインメント、金融サービス、小売、産業など、さまざまな分野で導入が急速に拡大しています。

^{*1} GlobalLogic ニュースリリース(2025 年 3 月 12 日)「GlobalLogic が AI、デジタル技術、専門家の知識を活用する「VelocityAI」のローンチを発表」

<https://www.hitachi.co.jp/New/cnews/month/2025/03/0312.html>

GlobalLogic の顧客において、中堅企業および大企業で顕著な成果が確認されています。具体的な事例は以下の通りです。

- 教育系ソフトウェア企業において、テストに必要な検証項目(テストケース)の 70%を自動化し、70%のカバレッジ(網羅率)を達成。さらに、開発の加速に Copilot を活用。
- 大手通信事業者と連携し、請求サイクルの異常を事前に検知する機械学習フレームワークを構築。これにより、カスタマーサポートへの問い合わせが 30%減少し、通話時間も 20%短縮。
- グローバルなスマートビル/グリーンビルソリューション企業において、コード生成・ユニットテスト作成・コード最適化を生成 AI ツールで自動化。生産性が 15%向上し、開発期間が大幅に短縮。コード生成のカバレッジも 80%以上を維持。

GlobalLogic テクノロジー・SDLC 部門シニア・バイス・プレジデント Raj Sethi(ラジ・セティ)のコメント：

「ソフトウェア開発の未来は、エンタープライズレベルの生成 AI ツールをライフサイクル全体に高度に統合することにかかっています。万能な解決策は存在しませんが、私たちは、VelocityAI を通じて、企業がそれぞれの固有のニーズに応じて最適な

選択を行っており、生成 AI によるエンハンスを求めるケースでも、完全に生成 AI ネイティブなアプローチを志向するケースもありますこの包括的で柔軟かつセキュアなフレームワークにより、常に市場投入までの時間を短縮し、品質を向上させ、急速に変化する技術環境においてお客さまが適応し続けることを支援しています。」

柔軟な価格設定：継続的な価値の提供

GlobalLogic は、現場で得た知見をもとに、柔軟かつ動的なプライシング体系を継続的に構築してきました。この体系は、お客さまの多様なビジネス目標、予算、契約モデルに適合するように設計されています。このアプローチにより、投資に対する透明性と管理性が確保され、スケールに応じた最適な価値が提供されます。

顧客はプロジェクト単位で価格を調整したり、複数のモデルを組み合わせることで変化するニーズに対応することが可能です。価格モデルのオプションは以下の通りです：

- **リソース・使用量ベース**：Time & Material 契約(作業時間と使用リソースに応じて課金される契約方式)、トークン消費型(AI が処理するテキスト量に応じて課金)、Bot-as-a-Service 型(チャットボットなど AI をサービスとして提供し、利用量に応じて課金)などが含まれ、ストーリーポイント(アジャイル開発で作業量や複雑さを数値化する単位)の達成数や実行されたテストケース数など、実際の作業量や使用指標に応じて価格を設定。
- **スコープ駆動型モデル**：明確に定義されたスコープに対する固定料金契約、特定の成果物に基づく成果物ベースの価格設定、SDLC の各ステージやプロジェクトのマイルストーンに合わせたハイブリッド型のアプローチなど。
- **価値連動型モデル**：サービスレベルの達成に基づく成果報酬型契約、ビジネス成果を共有する価値ベースのモデル、スループット(一定時間内に処理できる作業量やデータ量)や開発速度などの測定可能な生産性向上に連動したパフォーマンスインセンティブなどが含まれる。

新たなリーダーシップの参画：Ethan Matyas が顧客のビジネスモデル変革を推進

AI は、価値の提供と AI による加速に焦点を当てた、新しい、あるいはハイブリッド型のビジネスモデルの採用を促進し、それを必然的に導く存在です。このようなインテリジェントな変革の力をお客さまが理解し、活用できるよう支援するために、GlobalLogic は、30 年以上にわたるエンジニアリングおよびサービスの経験を持つシニアエグゼクティブとして Ethan Matyas(イーサン・マティアス)を新たに迎え入れます。Ethan は、グローバルのクロスファンクショナルチームと連携し、各企業の運用環境、インフラ、セキュリティポリシーに応じてビジネスモデルの進化を支援し、さらなる価値、一貫性、品質の向上を実現していきます。

VelocityAI の差別化要素：

- **モダンプロダクト実践アプローチ**：GlobalLogic の基本的なコンサルティングアプローチは、企業が自社の固有ニーズと、戦略的かつ価値ある生成 AI 導入の最適な統合ポイントを特定することを支援します。
- **柔軟性**：VelocityAI SDLC を活用することで、GlobalLogic 製のアクセラレータや外部ツールを用いることができ、最大 80%までの生成 AI 統合を支援できる選択肢を提供します。
- **エンドツーエンド**：アイデア創出から展開まで、デジタルエンジニアリングのライフサイクル全体にわたって適用され、各段階でシームレスな AI 統合を実現します。
- **IP セキュア**：知的財産の保護を最優先し、業界標準への準拠を組み込んでいます。
- **トレーニング済み人財**：GlobalLogic は、3 万人以上のエンジニアチーム全体に対してグローバルな生成 AI 導入を実施。GlobalLogic 製アクセラレータや外部ツール、AI エージェントを活用し、広範なトレーニングとお客さま案件対応を通じて導入を推進しています。

GlobalLogic は、従来型 AI における 10 年以上の経験をもとに、2021 年から企業の生成 AI 導入を支援しています。この深い専門知識により、AI 導入のあらゆる段階にあるお客さまに対して、効率的かつ確実に具体的なビジネス成果を提供することが可能です。

なお、日本国内向けには、日立製作所と連携し、2025 年度中にサービス提供する予定です。

GlobalLogic について

GlobalLogic (www.globallogic.com)は、デジタルエンジニアリングのリーダーです。私たちは、世界中の企業ブランドに対し、現代社会に向けた革新的なプロダクト、プラットフォーム、デジタルエクスペリエンスのデザインおよび構築を支援しています。エクスペリエンスデザインと高度なエンジニアリング、データに関する専門知識を統合することで、お客さまの可能性を想像し、明日のデジタルビジネスへの移行を加速する支援を行っています。

シリコンバレーに本社を置く GlobalLogic は、世界中でデザインスタジオとエンジニアリングセンターを擁しており、モビリティ、通信、金融サービス、ヘルスケアおよびライフサイエンス、製造、メディア・エンターテインメント、半導体、テクノロジー業界のお客さまに豊富な専門知識を提供しています。

日立グループの 1 社である GlobalLogic は、社会イノベーション事業として、データとテクノロジーによるイノベーションを推進し、より質の高い持続可能な社会に貢献しています。

日立製作所について日立製作所について日立は、IT、OT(制御・運用技術)、プロダクトを活用した社会イノベーション事業(SIB)を通じて、環境・幸福・経済成長が調和するハーモナイズドソサエティの実現に貢献します。デジタルシステム&サービス、エナジー、モビリティ、コネクティブインダストリーズの 4 セクターに加え、新たな成長事業を創出する戦略 SIB ビジネスユニットの事業体制でグローバルに事業を展開し、Lumada をコアとしてデータから価値を創出することで、お客さまと社会の課題を解決します。2024 年度(2025 年 3 月期)売上収益は 9 兆 7,833 億円、2025 年 3 月末時点で連結子会社は 618 社、全世界で約 28 万人の従業員を擁しています。詳しくは、www.hitachi.co.jp をご覧ください。

このニュースリリース記載の情報(製品価格、製品仕様、サービスの内容、発売日、お問い合わせ先、URL 等)は、発表日現在の情報です。予告なしに変更され、検索日と情報が異なる可能性もありますので、あらかじめご了承ください。
